

専門部会報告

〔 第4期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と
「さらなる挑戦」に対する意見について 〕

1	農業部会	1
2	林業部会	2
3	水産業部会	3
4	商工業部会	4
5	観光部会	5

第4期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(農業部会報告)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

第4期産業振興計画(農業分野)の実行3年半の取組により、「IoTプロジェクト等生産力強化に向けた取組が進んでいる」などの評価があった一方、「生産資材価格の高騰により農業を取り巻く状況は、より一層厳しさを増している」といった意見も出された。

<主な意見>

- IoTクラウド「SAWACHI」の本格運用が始まり、活用が促進されていることにより、農業のデジタル化が進んでいる。
- コロナ禍や資材高騰の影響を受け、経営が厳しい状況の中、物価高騰対策支援をしていただき、ありがたかった。
- 資材価格の高騰により、ハウスの建設費用をはじめ経費が上がっており、後継者は経営が成り立っていくか不安が大きい。
- 肥料等の価格が高騰している中、農産物の販売単価は昨年とほぼ同じ。販売する側も価格転嫁をしていかなければという思いはあるが、難しい問題である。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、県の方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

<主な意見>

- 「有機農業の推進」について、県が率先して進めてきていただきたい。
- 資材価格高騰の影響を受けにくい構造転換を図ることは重要であり、早期に転換できるようお願いしたい。
- 関西戦略を成功させるためにも、系統率を上げ、県内産地がより一層まとまっていく必要がある。
- パーシャル包装など高い評価を得ているものを活用し、高知県の青果物が有利に販売していけるよう、様々な観点から検討が必要。
- 高知県産の青果物は、まだまだ需要が見込めるので、反収アップや新規就農者の増加等で生産強化を行い、出荷量を増やして欲しい。

第4期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(林業部会報告)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

林業分野では、実行3年半の取り組みについて、高性能林業機械の導入が進むなど生産体制の強化により原木生産量は増加傾向にあるとともに、各種相談会の開催や林業大学校での研修実施などにより林業就業者数を横ばいで維持しており、一定の効果が出ていることを確認した。

<主な意見>

- 高性能林業機械の導入が進み生産性が向上した。一方、一定の事業者が高性能林業機械を導入したことから、今後は生産性を更に上げることは難しくなるのではないか。
- 原木生産量が拡大する中で山での事故に関するニュースも多く目にするように感じる。安全対策など、今後も考えなければならないことは多くある。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、提示した方向で進めることについて異議はなかった。

<主な意見>

- 再造林の推進にあたり林業適地を拡大していくためには路網整備が必要。林業適地に関する目標値と路網整備との関係について、今後、再造林推進プランを実行していく中で検討してほしい。
- 古い製材機械は大径材を扱えるのではないか。こうした機械のある製材所の活用や支援を進めてはどうか。
- 担い手の育成・確保については、事業者が担い手の育成に関わりながら職場環境を改善するなど、事業者が担い手から求められていることもあるのではないか。
- 兼業で林業をされている方の機動的な活躍は期待するが、労働管理面で制約がある。今後、具体的な施策を検討するにあたっては整合性を考える必要がある。

第4期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(水産業部会報告)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

水産業分野では、新型コロナの影響や、燃油や資材、養殖用飼料の高騰、さらには、ALPS 処理水の海洋放出に伴う中国の日本産水産物の輸入停止といった厳しい状況の中、漁業生産額や水産加工出荷額は新型コロナ前の水準近くまで回復する見込みであること、また新規就業者の確保に向けた取り組みについては一定の効果が出ていることを確認した。

外商に係る施策や新規就業者のフォローアップ等について、部会員から以下のような意見が出された。

<主な意見>

- 今後の国内需要の縮小を考えると輸出の取り組みは重要と考える。
- 地産外商の取り組みにあたっては、高知市公設水産地方卸売市場の積極的な活用を検討いただきたい。
- 新規就業者数だけでなく、就業後もフォローアップを行い、どれだけの人が現在も定着できているかを把握し取り組みの成果としてもらいたい。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

<主な意見>

- 最近では、海況の変化によりサメによる漁業被害が増えていると聞くので、漁業生産への影響を抑えるためにも対策を検討していただきたい。
- ALPS 処理水の影響による中国への輸出停止などもあるが、長期的、持続的に輸出を行っていけるよう、計画を立てて取り組んでももらいたい。
- 新規就業者が地域に定着していくためには、ミスマッチを防ぐとともに経営状況等も含めたフォローアップを行っていくことが必要である。
- 漁業者だけでなく、漁協や加工業者、造船所等でも人手不足が進んでおり、また、農業や林業などの他分野でも同様の状況であるため、水産振興部だけでなく、県庁内で横断的に取り組みの検討を進めてもらいたい。

第4期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(商工業部会報告)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

<主な意見>

- コロナ禍などの厳しい環境の中で、各戦略目標において順調に成果があらわれており、十分に評価できる。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、事務局提案の方向性で進めることについて異議はなく、次回の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

<主な意見>

- 分野を代表する目標に製造品出荷額等を掲げているが、価格転嫁が進んだことにより、結果として出荷額が増加していくことを念頭に置いたうえで、今後は取り組みを進めていただきたい。
- 人手不足感が高まる中、IT・コンテンツ企業を誘致することで、地場IT企業との人材の奪い合いになるのではないかと懸念がある。もし撤退するとなると、そこで採用された人材はどうなるのかという課題もあるため、今後はさらに広い視野を持って、誘致活動に取り組むことが必要。
- IT系などの技術職は、技術を習得するまでに継続した長い期間を要するため、成長の途中段階で出産や子育てにより休職すると、復職後の成長が大きく遅れてしまう。近年は男性も育児休業を取得する時代になっており、男女とも、休職による影響をいかにカバーできるのかが課題。
- 高知の若い女性が県外に流出してしまう原因の一つとして、企業が男性を優位的に扱う傾向がまだまだあるからだと感じる。女性の活躍推進に向けた職場づくりを進めるとともに、企業がそのことを十分にPRしていくことが重要。
- 空き店舗へ出店する人をいかに増やすのが重要。今までのような商品を仕入れて売っただけでは成り立たなくなっているため、物販だけでなく、製造小売のような手に職を持った人を誘致するような施策が必要ではないか。
- 小規模事業者の支援においては、地域性に沿った支援を行うことが肝要。中山間地域再興ビジョンと上手く連動させて、地域の実情に応じた取り組みを展開していただきたい。

第4期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(観光部会報告)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

新型コロナウイルスの影響により、県外観光客の入込数等が大きく減少したものの、令和4年以降は、観光博覧会の開催など、連続テレビ小説を最大限に生かした観光振興やクルーズ船、台湾からのチャーター便の誘致などにより、観光需要に回復の兆しが見られていることから、十分に評価できる。

<主な意見>

- 台湾のチャーター便誘致やクルーズ船効果もあり、非常に多くのインバウンド観光客が、高知県の各観光施設に訪れている。
- 連続テレビ小説「らんまん」を生かした観光博覧会の開催等により、多くの観光客が訪れ、高知に良い影響をもたらしてくれている。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

第5期高知県産業振興計画に向けた観光戦略案について、この方向性で進めることについて異議はなく、原案どおり了承された。

事務局から説明した次期観光戦略について、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

<主な意見>

- 第5期産業振興計画に向けての大きな目標の1つとして、滞在日数の増加に加えて、単価アップも目指していただきたい。
- 台湾のチャーター便から定期便化へ取り組むとあるが、そのためには、高知県民が台湾にもっと興味を持ち、観光に行っていただくような双方向の関係となるための取り組みが必要。
- 外国人材の活用について、県内の留学生の雇用にもっと焦点を当てた施策を実施してはどうか。
- 次期戦略に向けたキャッチコピーは、「クールジャパン」のような分かりやすい、キレのあるコピーが必要ではないか。
- 滞在型観光を推進していくうえで、ストレスフリーな環境をつくるのが大切。そのためには、インターネット、WiFi環境などの通信環境の整備が必須。
- 高知県は、幕末、明治時代に世界で活躍した著名人を多く輩出していることから、そのような歴史的に活躍した人物と観光をつなげる取り組みが必要である。
- これからは、キャンプをするだけでなく、「キャンプをしながら何処かへ出かける。」といったスタイルが主流となっていく。キャンプと釣りなど、キャンプと組み合わせることができるコンテンツが高知県には多くあるので、それらを生かしていくことが重要。
- 地理的ハンデのある高知県は、各主要空港に直行便をつなげて行くことが大切。そういった点を見越した場合、空港の増設整備が必須となる。
- 次期戦略のコンセプトである「極上の田舎、高知。」を推進するためには、高知の田舎で、生き生きと暮らしている現状をどう表現し、伝えていくかが、課題。
- 全国でも注目されている「食」に特化した施策を柱に、高付加価値化の非日常的な体験として、高単価のコースを取り入れたツアーで富裕層を誘致してはどうか。